KENWOOD

アクティブサブウーファー

SW-508ES

取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございました。
機器を正しく、安全にご使用いただくため、使用を開始する前に必ず、この取扱説明書の「安全上のご注意」をお読みになり、十分にご理解ください。
使いかたの説明も、併せてよくお読みくださるよう、お願いいたします。
また、取扱説明書は大切に保管して、必要になったときに繰り返してお読みください。

株式会社 ケンウッド
Kenwood Corporation

B61-1273-00 00 (J) KW 0504

安全上のご注意

⚠ このページは、感電や火災からあなたを守るため、
ご使用の前に必ずお読みください。

製品を安全にご使用いただくため、「安全上のご注意」をご使用の前によくお読みください。

絵表示について

この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使い頂き、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止する為に、いろいろな絵表示をしています。
その表示と意味は次のようになっています。内容を良く理解してから、本文をお読みください。

警告　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は、注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は、禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は、行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

お客様または第三者が、この製品の誤使用・故障・その他の不具合およびこの製品の使用によって受けられた損害につきましては、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

この製品の故障・誤動作・不具合などによって発生した次に掲げる損害などの付随的損害の補償につきましては、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- お客様または第三者がテープ・ディスクなどへ記録された内容の損害
- 録音・再生などお客様または第三者が製品利用の機会を逸したことによる損害

この「安全上のご注意」には、当社のオーディオ機器全般についての内容を記載しています。
（説明項目の中には、操作説明部と重複する内容もあります）

⚠ 警告

交流 100 ボルトの電圧で使用する

この機器は、交流 100 ボルト専用です。指定の電源電圧以外で使用すると、火災・感電の原因となります。

船舶などの直流（DC）電源には接続しない

火災の原因となります。

通風孔をふさがない

- あおむけや横倒し、逆さまにして使用しない。
- 布を掛けたり、じゅうたん、布団の上に置いて使用しない。
- 風通しの悪い狭い所で使用しない。

通風孔がふさがると、内部に熱がこもり、火災の原因となります。

風呂、シャワー室では使用しない

風呂、シャワー室など湿度の高いところや、水はねのある場所では使用しない。火災・感電の原因となります。

水をかけたりぬらしたりしない

火災・感電の原因となります。
雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。

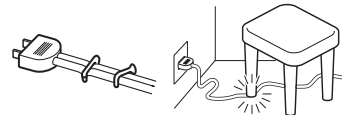
ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となります。

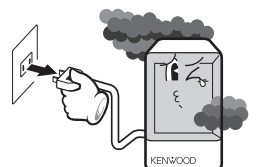
雷が鳴り始めたら電源プラグには触れない

感電の原因となります。

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したり、ステープルや釘などで固定したりしない。
電源コードの上に重いものをのせたり、コードを本機の下敷きにしたりしない。コードを敷物などで覆ってしまうと、気づかずに重いものをのせてしまうことがあります。
コードが傷つき、火災・感電の原因となります。

電源コードが傷ついたら（芯線の露出、断線など）販売店または当社サービス窓口に交換をご依頼ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

異常が起きた場合は電源プラグを抜く

内部に水や異物が入ったり、煙が出たり、変な臭いや音がしたりした場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
煙や、異臭、異音が消えたのを確かめてから修理をご依頼ください。

⚠警告

ビニール袋は子供の手の届かないところにかたづける

かぶって遊んだりしないようご注意ください。窒息の原因となります。

電源プラグを定期的に清掃する

電源プラグにほこりなどが付着していると、湿気等により絶縁が悪くなり、火災・感電の原因となります。
電源プラグをコンセントから抜いて、乾いた布で取り除いてください。

機器の内部に水や異物を入れない

機器の通風孔、開口部から内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしない。
火災・感電の原因となります。

機器のケースを開けたり改造したりしない

内部には電圧の高い部分があり、火災・感電の原因となります。
点検、修理は販売店または当社サービス窓口にご依頼ください。

落下した機器は電源プラグを抜く

機器を落としたり、カバーやケースがこわれたりした場合は、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、点検、修理をご依頼ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

機器の上に花びんやコップなど水の入った容器を置かない

水がこぼれて中に入ると、火災・感電の原因となります。

機器の上にろうそくやランプなど火のついた物を置かない

本機のカバーやパネルにはプラスチックが使われており、燃え移ると、火災の原因となります。

⚠ 注意

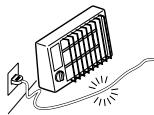
移動させるときは電源プラグを抜く

移動させるときは、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜き、接続コードを外す。コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜くときは電源コードを引っ張らない

コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

電源コードを熱器具に近づけない

電源コードを熱器具（ストーブ、アイロンなど）に近づけない。
コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

機器に乗らない

機器に乗ったり、ぶら下がったりしない。特にお子様にはご注意ください。
倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。

機器の接続は取扱説明書に従う

関連機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続する。また、接続は指定のコードを使用する。
あやまった接続、指定以外のコードの使用、コードの延長をすると発熱し、やけどの原因となることがあります。

耳を刺激するような大きな音で長時間続けて聞かない

聴力に悪い影響を与えることがあります。

温度の高い場所に置かない

窓を閉めきった自動車の中や直射日光があたる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しない。
本体や部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。

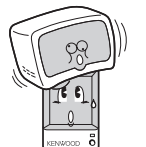
湿気やほこりの多い場所に置かない

油煙や湯気の当たる調理台や加湿器のそば、湿気やほこりの多い場所に置かない。
火災・感電の原因となることがあります。

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かない。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。

機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きな物を置かない

バランスがくずれて倒れたり、落下したりして、けがの原因となることがあります。

⚠ 注意

サランネットやダクトに手をかけて持ち運ばない

落下や転倒により、故障やけがの原因となることがあります。

電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込む

差し込みが不完全ですと発熱したりほこりが付着したりして、火災の原因となることがあります。また、電源プラグの刃に触れると、感電の原因となることがあります。
電源プラグを根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントの場合には、販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。

はじめから音量を上げすぎない

突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

長時間音が歪んだ状態で使わない

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

長期間使用しないときは電源プラグを抜く

旅行などで長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。火災の原因となることがあります。

お手入れの際は電源プラグを抜く

お手入れの際は電源プラグをコンセントから抜く。感電の原因となることがあります。

定期的に内部の点検、清掃をする

3 年に 1 度程度を目安に、機器内部の点検、清掃をお勧めします。販売店、または最寄りのケンウッドサービス窓口に費用を含めご相談ください。
内部にほこりのたまったまま長い間掃除をしないと、火災や故障の原因となることがあります。

ご使用の前に

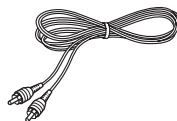
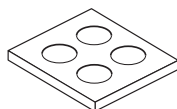
包装ケースはぜひ保管されて、修理サービスや移転などのとき、この製品を保護するためにご利用ください。

目次

⚠ このマークのついた頁は、安全確保のために必ずお読みください。

付属品

次の部品がそろっていることを確認してください。

● ピンプラグ付きコード：1 本

● クッション：4 個（1 シート）

付属品のクッションについて

付属のクッション 4 個をスピーカーの底面に貼り付けてください。滑り防止とサブウーファーの振動を設置面に伝えにくくする効果があります。

設置のしかた

⚠ 注意

- 本機は、電源プラグをコンセントから容易に抜くことができる位置に設置してください。
- 本機は、電源スイッチを OFF にしても電源から完全には遮断されません。電源から完全に遮断する場合には、電源プラグをコンセントから抜いてください。

サブウーファーの防磁とテレビについて

本機をブラウン管タイプのテレビの近くに設置すると、テレビの画面に色むらが発生することがあります。その場合は本機をテレビから離して設置してください。

ハウリングについて

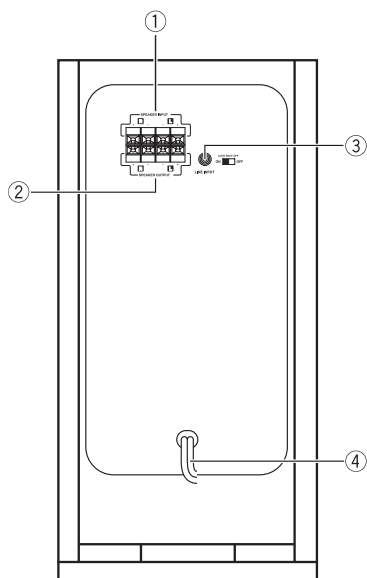
アナログレコードプレーヤーの近くに本機を設置すると、本機の音が設置面や周囲の空気を振動させ、“ボワーン”というハウリング現象が起ることがあります。このような場合、アナログレコードプレーヤーと本機の距離を離すか、本機の音量をさげてお使いください。
ごくまれにカセットデッキや、コンパクトディスクプレーヤー、ミニディスクプレーヤー、DVD プレーヤーでもハウリング現象により、音が歪んだり、画像が乱れることがあります。このような場合も、本機との距離を離すか、音量をさげてお使いください。

ステレオ音のエチケット

楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。

隣り近所への配慮を十分いたしましょう。ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。特に静かな夜間には、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドホンをご利用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

接続のしかた

接続の前に

> ⚠ **注意**
>
> **接続が完了するまで、電源コードのプラグをコンセントに差し込まないでください。**

① **スピーカー入力端子（SPEAKER INPUT）**
アンプまたは AV コントロールセンターのスピーカー出力信号を入力します。

② **スピーカー出力端子（SPEAKER OUTPUT）**
スピーカー入力端子で受けたスピーカー信号をフロントスピーカーに中継出力します。

③ **サブウーファーライン入力端子（LINE INPUT）**
アンプまたは AV コントロールセンターのサブウーファープリアウト信号などを入力します。

④ **電源コード**

接続されるアンプや AV コントロールセンターの信号出力や使用条件に合わせ、次のいずれかの方法で本機を接続してください。

アンプまたは AV コントロールセンターに、サブウーファープリアウト出力がある場合

接続されるアンプや AV コントロールセンターのサブウーファープリアウト端子に、本機を接続します。（**「アンプのサブウーファープリアウト端子に接続する」→9**）

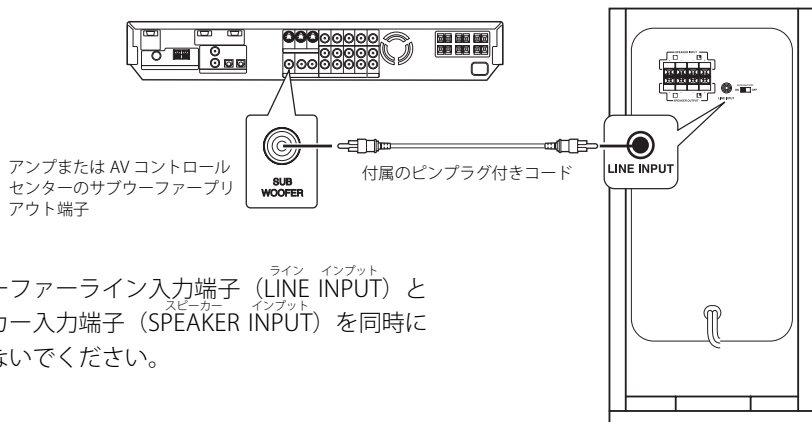
アンプまたは AV コントロールセンターに、サブウーファープリアウト出力がない場合

接続されるアンプや AV コントロールセンターのスピーカー出力端子に、本機を接続します。（**「アンプのスピーカー出力端子に接続する」→9**）

1. すべての接続コードは確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと、音が出なくなったり、雑音が発生することがあります。
2. 接続コードを抜き差しするときは、必ず電源コードを電源コンセントから抜いてください。電源コードを抜かずに接続コードの抜き差しを行うと、誤動作または破損の原因となります。
3. スピーカーコードの＋と－は絶対にショートさせないでください。
4. 左右を逆にしたり、極性を間違えて接続しますと、楽器などの位置がはっきりしない不自然な音になります。正しく接続してください。
5. 関連システム機器を接続するときは、関連機器の取扱説明書も、合わせてお読みください。

アンプのサブウーファープリアウト端子に接続する

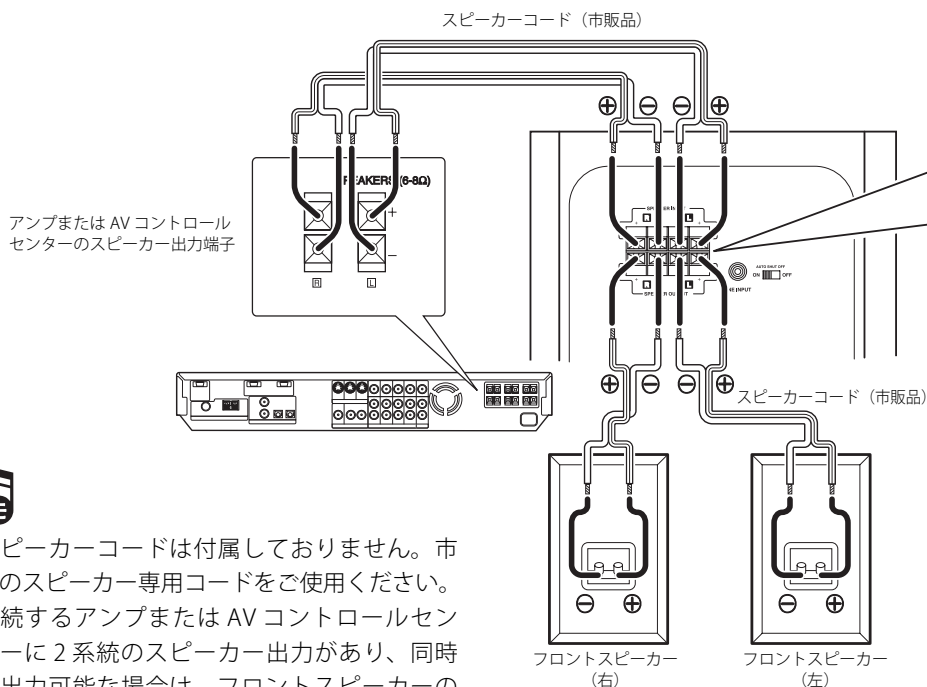
付属のピンプラグ付きコードを使用して、アンプまたはAV コントロールセンターのサブウーファープリアウト端子と本機のサブウーファーライン入力端子（LINE INPUT）を接続します。

> **⚠ 注意**
> **接続が完了するまで、電源コードのプラグをコンセントに差し込まないでください。**

メモ：サブウーファーライン入力端子（LINE INPUT）とスピーカー入力端子（SPEAKER INPUT）を同時に使用しないでください。

アンプのスピーカー出力端子に接続する

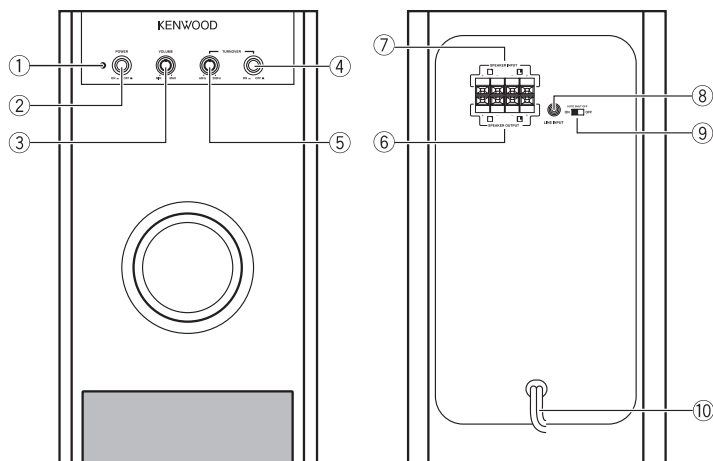
アンプまたは AV コントロールセンターのスピーカー出力端子と本機のスピーカー入力端子（SPEAKER INPUT）およびスピーカー出力端子（SPEAKER OUTPUT）とフロントスピーカーを市販のスピーカーコードで接続します。

> **⚠ 注意**
> **接続が完了するまで、電源コードのプラグをコンセントに差し込まないでください。**

メモ

1. スピーカーコードは付属しておりません。市販のスピーカー専用コードをご使用ください。
2. 接続するアンプまたは AV コントロールセンターに 2 系統のスピーカー出力があり、同時に出力可能な場合は、フロントスピーカーの接続は本機を中継せず、直接アンプまたは AV コントロールセンターとフロントスピーカーを接続することもできます。
3. サブウーファーライン入力端子（LINE INPUT）とスピーカー入力端子（SPEAKER INPUT）を同時に使用しないでください。

接続のご注意

- **本機にフロントスピーカーを接続する場合は、ご使用のアンプまたは AV コントロールセンターで指定されているインピーダンスのスピーカーを使用してください。**
- **本機とアンプまたは AV コントロールセンターを接続する場合は、(+) 端子を（+）端子に、(-) 端子を（-）端子につなぐよう十分ご注意ください。正しく接続しないとアンプまたは AV コントロールセンターが故障する原因となります。**

各部の名前とはたらき

① オン／スタンバイインジケーター
電源が入ると緑色に点灯します。スタンバイ状態のとき赤色に点灯します。

② POWER（パワー）スイッチ
電源をオンにしたり、オフにしたりします。スイッチを押して電源をオン／オフしてください。

③ VOLUME（ボリューム）つまみ
フロントスピーカーの音量とバランスが取れるように音量を調節します。

④ TURNOVER（ターンオーバー）スイッチ
お好みに合わせて、オンにしたりオフにしたりしてください。

ON のとき：ターンオーバー周波数を調整できます。⑤の説明をご覧ください。

OFF のとき：アンプまたは AV コントロールセンターからの信号がそのまま再生されます。お使いのアンプまたは AV コントロールセンターに、サブウーファーから再生される音を設定する機能が搭載されている場合は、オフにすることをおすすめします。

TURNOVER（ターンオーバー）スイッチがオフのとき、ターンオーバー周波数調整機能は働きません。

スタンバイ状態について
本機のオン／スタンバイインジケーターが赤色に点灯中は、微弱な通電を行っています。これをスタンバイ状態といいます。

⑤ TURNOVER（ターンオーバー）（ターンオーバー周波数調整）つまみ
サブウーファーから再生される音の高音域成分をカットする周波数を変化させてフロントスピーカーとの音のつながりを調整します。

フロントスピーカー	ターンオーバー周波数
小	120 ～ 200 Hz
中	80 ～ 120 Hz
大	60 ～ 80 Hz

フロントスピーカーの大きさ、再生する音楽のジャンルまたは映画音声など再生するソースに合わせて、好ましい低音再生になるように調整します。

TURNOVER（ターンオーバー）スイッチがオフのとき、ターンオーバー周波数調整機能は働きません。

⑥ スピーカー出力端子（SPEAKER（スピーカー） OUTPUT（アウトプット）） → 8

⑦ スピーカー入力端子（SPEAKER（スピーカー） INPUT（インプット）） → 8

⑧ サブウーファーライン入力端子（LINE（ライン） INPUT（インプット）） → 8

⑨ AUTO（オート） SHUT（シャット） OFF（オフ） スイッチ
オートシャットオフ機能をオンにしたりオフにしたりします。

ON（オン） のとき：サブウーファーに約 10 分以上音楽信号が入ってこないと、自動的にスタンバイ状態になります。スタンバイ状態中に再び音楽信号が入ると、電源オンの状態に戻ります。

⑩ 電源コード

使用上のご注意

過大な入力でサブウーファーを使用すると、音質をそこねたり、また故障の原因となることがありますので、次のことに十分ご注意ください。

1. 接続するアンプまたは AV コントロールセンターのトーンコントロールやラウドネスコントロールなどで、低音域のレベルを大幅にあげた状態で、大出力でご使用にならないでください。
2. 接続するアンプまたは AV コントロールセンターのスイッチを切り換えるときは、接続するアンプまたは AV コントロールセンターのボリュームを最小にしてください。

定格

形式......アンプ内蔵、サブウーファーシステム

[アンプ部]

ダイナミックパワー......75 W + 75 W (6 Ω)

定格出力......60 W + 60 W RMS（100 Hz、6 Ω)

入力感度 / インピーダンス

LINE INPUT（ライン インプット）......230 mV (22 kΩ)

SPEAKER INPUT (1ch インプット)（スピーカー インプット）......2.0 V (6.5 kΩ)

再生周波数特性

TURNOVER オン時（ターンオーバー）......15 Hz ～ 200 Hz

TURNOVER オフ時（ターンオーバー）......15 Hz ～ 3.5 kHz

[スピーカー部]

エンクロージャー......バスレフ方式

スピーカーユニット......160 mm x 2　コーン型

定格インピーダンス......6 Ω

[電源部・その他]

電源電圧、電源周波数......AC 100 V、50 Hz/60 Hz

定格消費電力（電気用品安全法に基づく表示）......100 W

最大外形寸法

幅......219 mm

高さ......439 mm

奥行......392 mm

質量 (重量)......14.5 kg (正味)

1. これらの定格およびデザインは、技術開発にともない予告なく変更することがあります。
2. 極端に寒い（摂氏 0 度以下の）場所では、十分に性能を発揮できないことがあります。

ケンウッドサービス網

2005 年 6 月現在

製品に対するお問合せ、アフターサービスについてのお申し込みは、お買い上げの販売店または最寄りのケンウッドサービス窓口にお申しつけください。

北海道			
札幌サービスセンター	〒007-0834	札幌市東区北 34 条東 14-1-23	☎(011) 743-7740
東北			
仙台サービスセンター	〒984-0042	仙台市若林区大和町 5-32-12(サンライズ大和)	☎(022) 284-1171
盛岡サービスステーション	〒020-0124	盛岡市厨川 4-5-11	☎(019) 646-2311
関東・信越			
さいたまサービスセンター	〒331-0812	さいたま市北区宮原 1-311-1(加茂宮ビル 1F)	☎(048) 664-3611
千葉サービスセンター	〒277-0081	柏市富里 1-2-1	☎(04) 7163-1441
横浜サービスセンター	〒226-8525	横浜市緑区白山 1-16-2	☎(045) 939-6242
東京サービスステーション	〒169-0073	新宿区百人町 2-16-15(MY ビル 1F)	☎(03) 3363-1650
新潟サービスステーション	〒950-0923	新潟市姥ケ山 1-5-37	☎(025) 287-7736
中部・甲州			
名古屋サービスセンター	〒462-0861	名古屋市北区辻本通 1-11	☎(052) 917-2550
静岡サービスステーション	〒420-0816	静岡市沓谷 5-61-1	☎(054) 262-8700
松本サービスステーション	〒390-0832	松本市南松本 2-7-30(昭和ビル 2F)	☎(0263) 26-7331
金沢サービスステーション	〒920-0036	金沢市元菊町 21-87(第 2 濱伍ビル 1F)	☎(076) 265-5045
近畿・四国			
大阪サービスセンター	〒532-0034	大阪市淀川区野中北 2-1-22	☎(06) 6394-8075
高松サービスステーション	〒760-0068	高松市松島町 3-1	☎(087) 835-2413
中国			
広島サービスセンター	〒731-0137	広島市安佐南区山本 1-8-23	☎(082) 832-2210
九州			
福岡サービスセンター	〒815-0035	福岡市南区向野 2-8-18	☎(092) 551-9755
鹿児島サービスステーション	〒890-0063	鹿児島市鴨池 2-15-10(パレス鴨池 1F)	☎(099) 251-6347
沖縄サービスステーション	〒901-2132	浦添市伊祖 1-5-2	☎(098) 874-9010

カスタマーサポートセンター 〒226-8525　横浜市緑区白山 1-16-2
☎ (057) 010-114　ナビダイヤル（一般電話・公衆電話からは、市内通話料金でご利用いただけます。）
携帯電話・PHS でのご利用は ☎ (045) 933-5133

- ケンウッドサービス窓口　営業時間のご案内
  月曜日～金曜日（土曜、日曜、祭日及び当社休日を除く）午前 10 時から午後 6 時まで
- カスタマーサポートセンター　営業時間のご案内
  月曜日～金曜日（土曜、日曜、祭日及び当社休日を除く）午前 9 時から午後 6 時まで

（各サービス窓口の名称、所在地、電話番号は変更になることがありますのでご了承ください）

保証とアフターサービス（よくお読みください）

保証書（別途添付）

この製品には、保証書を（別途）添付しております。保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめの上、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

保証期間

保証期間は、お買い上げの日より 1 年間です。
一部の消耗部品の交換、ならびに落下、水没など、不適切なご使用による故障の場合は、保証期間内でも有料となります。詳しくは保証書をご覧ください。

修理に関するご相談ならびにご不明な点は

修理に関するご相談ならびにご不明な点は、お買い上げの販売店またはケンウッドサービス窓口にお問い合わせください。
(お問い合わせ先は、「ケンウッドサービス網」をご覧ください)

補修用性能部品の保有期間

当社は、このステレオの補修用性能部品を、製造打ち切り後、8 年保有しております。
補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

シリアル番号について

システム商品の各機器に製造シリアル番号がつけられておりますが、保証書にはシステム管理用として、別のシリアル番号が印刷されています。
付属の保証書で、お買い上げのシステム機器（基本システム）すべての保証修理が受けられます。

修理を依頼されるときは

異常があるときは、製品の使用を中止し、お買い上げの販売店または最寄りのケンウッドサービス窓口にお問い合わせください。

この製品の故障・誤動作・不具合などによって発生した次に掲げる損害などの付随的損害の補償につきましては、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- お客様または第三者がテープ・ディスクなどへ記録された内容の損害
- 録音・再生などお客様または第三者が製品利用の機会を逸したことによる損害

保証期間中は

保証期間中は保証書の規定に従って、お買い上げの販売店またはケンウッドのサービス窓口が修理をさせていただきます。
修理に際しましては保証書をご提示ください。

出張修理／持込修理

「出張修理」、「持込修理」のどちらが適用されるかは機種によって異なります。保証書の記載をご確認ください。出張修理を依頼されるときは、次のことをお知らせください。

- 製品名 ....
- 製造番号（Serial No.） ....
- お買い上げ年月日 ....
- 故障の症状 （できるだけ具体的に） ....
- ご住所（ご近所の目印等も併せてお知らせください） ....
- お名前、電話番号、訪問ご希望日 ....

保証期間が過ぎているときは

保証期間が過ぎているときは、修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。

修理料金の仕組み

（有料修理の場合は、つぎの料金をいただきます）

- 技術料：故障した製品を正常に修復するための料金です。
  技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費や、一般管理費等が含まれます。
- 部品代：修理に使用した部品の代金です。その他、修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
- 出張料：製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。
  別途、駐車料金および通行料金をいただく場合があります。
- 送料： 郵便、宅配便などの料金です。保証期間内に無償修理などを行うにあたって、お客様に負担していただく場合があります。

お買上げ店名

電話 (　　　) 　　　-

KENWOOD

株式会社 ケンウッド

〒 192-8525　東京都八王子市石川町 2967-3

商品および商品の取り扱いに関するお問い合わせは、カスタマーサポートセンターをご利用ください。

カスタマーサポートセンター　電話 (0570) 010-114（ナビダイヤル）、携帯電話・PHS でのご利用は電話 (045) 933-5133
〒 226-8525 横浜市緑区白山 1-16-2　　FAX (045) 933-5553

アフターサービスについては、お買い上げの販売店か、または「ケンウッド サービス網」をご参照のうえ、最寄りのサービス窓口にご相談ください。